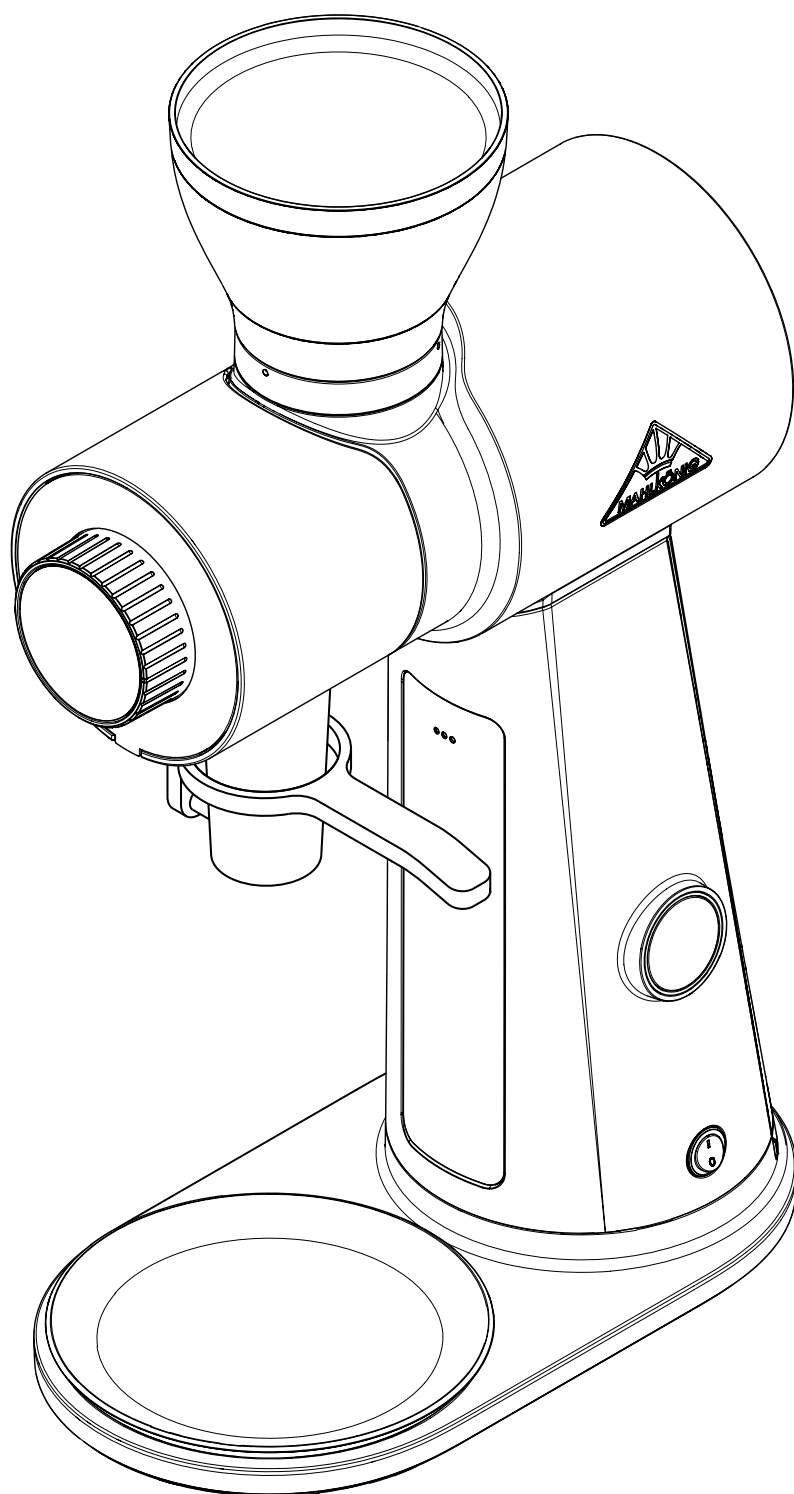


オールラウンドコーヒーグラインダー EK OMNIA


取扱説明書 / 保証書

EK OMNIA

ALLROUND COFFEE GRINDER



メリタジャパン株式会社

 0570-550267

受付時間：9:00～12:00 / 13:00～17:30
(土日祝日・年末年始を除く)


メリタジャパン

製品の特徴

このたびは「マールクーニックオールラウンドコーヒーグラインダーEK OMNIA」をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。この機器を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」(P2-4)をよくお読みください。また、この機器の優れた機能を十分ご理解いただくためにも、取扱説明書をよくお読みください。取扱説明書／保証書(本書)は大切に保管してください。

目次

1	安全上のご注意	
2	製品概要	
2.1	各部名称	P 5
2.2	付属品	P 5
3	初回起動	
3.1	開梱	P 6
3.2	グラインダーと納品内容を確認する	P 6
3.3	グラインダーの設置・接続	P 7
3.4	等電位ボンディングの接続	P 7
4	グラインダーの仕組み	
4.1	Classicモード	P 8
4.2	Timeモード	P 8
4.3	Libraryモード	P 9
5	基本的な取り扱い	
5.1	豆ホッパーの取り付け／取り外し	P10
5.2	豆の投入	P11
5.3	グラインダーの電源を入れる	P11
5.4	モードを選択する	P11
5.5	レシピを選択する	P12
5.6	豆の種類を選択する	P12
5.7	コーヒーコンテナをセットする	P12
5.8	エスプレッソモジュールの 取り付け／取り外し	P13
5.9	ポルタフィルターホルダーの調整	P13
6	豆を挽く	
6.1	Classicモードでの手動豆挽き	P14
6.2	Timeモードでのレシピに 応じた豆挽き	P15
6.3	Libraryモードでのレシピに 応じた豆挽き	P16
6.4	豆挽きを中断する	P16
6.5	豆の種類の変更	P17
7	設定操作	
7.1	挽き目の調整	P18
7.2	既存レシピの変更	P18
8	クリーニング	
8.1	グラインダー底部のクリーニング	P19
8.2	本体のクリーニング	P20
8.3	スパウトのクリーニング	P20
8.4	豆ホッパーのクリーニング	P21
8.5	グラインダーのクリーニング	P21
9	仕様	P22
10	トラブルシューティング	P23
11	メンテナンスと修理	P24
12	セルフパーツ	P25
13	保証規定	P26

1 安全上のご注意

ご使用前によくお読みのうえ、
正しくお使いください。

誤った取り扱いをしたときに想定される内容を
「警告」と「注意」に区分して説明しています。



警告 死亡や重傷を負う恐れがある内容



注意 傷害を負う可能性や物的損害の
発生が想定される内容

お守りいただく内容の種類を
下の図記号で説明しています。



してはいけない内容



必ず守ること



警告 死亡や重症に繋がる火災、感電、大けがを防ぐために

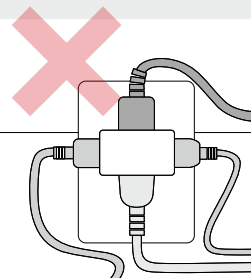
電源について 守らないと火災・感電の原因になります



- 定格15A以上のアース端子付きのコンセントに本機単独で直接差し込む。



- 交流100V以外では使用しない。
- コンセントを他の器具と併用しない。
- 延長コードの使用やタコ足配線をしない。



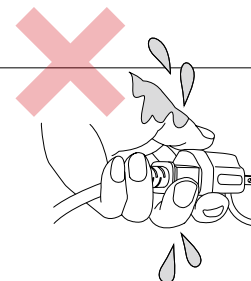
電源プラグ 従わないと感電・ショート・発煙・発火の恐れがあります



- 電源プラグのほこりなどの汚れは、プラグをコンセントから抜き、乾いた布で定期的に拭き取る。
- 電源プラグを抜くときはコードを持たず、プラグ本体を持って抜き差しする。
- 電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。



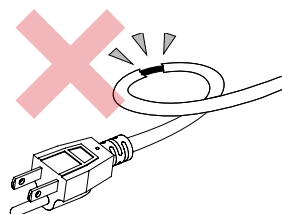
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
- 電源プラグに水滴をつけない。
- 傷んだ電源コードや電源プラグの差し込みが緩いときは使用しない。
- 電源プラグにピンやごみを付着させない。
- 電源プラグを舐めない。



電源コード 気を付けないと感電・ショート・発煙・発火の恐れがあります



- 電源コードを傷つけない。
- 傷んだコードは使用しない。
- コードを無理に曲げたり、引っ張ったり、重いものを載せたりしない。
- 電源コードは束ねたり、無理に曲げたり、鋭利なものの上をはわせない。
- 電源コードを持って本体を運ばない。



アース 接続しないと漏電時に感電の恐れがあります



- アース線は必ず壁コンセントのアース端子に接続する。



- アース線は延長しない。
- アース線は水道管、ガス管、建物の金属部分に接続しない。

本体 正しく扱わないと感電・火災・けがの原因になります



- 異常を感じたり、故障したりした場合は直ちに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて使用を中止する。
- 電源プラグやケーブルが傷んでいたり、故障や異常があったりする場合は使用を中止し、メリタジャパンお客様相談室に連絡する。



- 運転中にフタを開けてホッパー内部の豆やグランドディスクに触れたり、顔を近づけたりしない。
- 改造しない。
- 自分で分解・修理はしない。
- 自分で電源プラグを取り替えない。
- 本体を水に浸けたり水をかけたりしない。
- 濡れた手で電源スイッチを入れたり、本体・電源プラグに触れたりしない。

子供 守らないと事故の危険があります



- 子供だけで使用させない。
- 包装フィルムで子供が遊ばないように注意する。



- 子供の手の届くところで使用しない。
- 子供の手の届くところに保管しない。



注意

使用者や子供のけが、家屋や家財の損傷、製品の故障を防ぐために

子供・乳幼児 守らないとやけどや感電の危険があります



- 子供が本機で遊んだり、グライNDERに異物を入れたりしないように注意する。
- 電源コードを子供が引っ張らないように注意する。
- 乳幼児が誤って電源プラグを舐めないように注意する。
- 運転中は、乳幼児が本機に近づかないように注意する。
- 乳幼児がパーツ類で遊んだり、小さな部品を飲み込まないように注意する。

使い方 守らないとやけどや感電の危険があります



- 取扱説明書をよく読んで操作を理解してから使用する。
- 本機の操作方法を理解していない人に使わせない。
- 使用しない時は電源プラグを抜く。
- 運転中は本機の前から離れない。
- 使用前にホッパーに異物が入っていないか確認する。



- ガスレンジまたはストーブなどの暖房器具の近くやホットカーペットの上で使用しない。
- 湿気の多い場所では使用しない。
- 屋外では使用しない。

使い方 守らないと故障の原因になります



- ホッパーを持って本体を持ち上げない。
- コーヒー豆を入れたまま長期間放置しない。
- 長時間の連続運転はしない。



- ホッパーからコーヒー豆をあふれさせない。
- ホッパーにローストしたコーヒー豆以外のものを入れない。
- 解除ボタン(過電流保護用温度ヒューズ)を指で押して強制的に使用しない。
- ローストしたコーヒー豆を挽くこと以外の目的で使用しない。
- 製品に付属しているか、メリタジャパンが推奨しているアタッチメント以外は使用しない。

本体 正しく扱わないと感電・火災・けがの原因になります



- パーツの取り付け・取り外しを行うときは、スイッチを切り、電源プラグを抜いてから行う。



- 落としたり、硬いものにぶつけない。
- 電源コードが熱を持ったものに触れたり、近づかないように注意する。
- 電源を入れたまま放置しない。使用後には電源を切る。

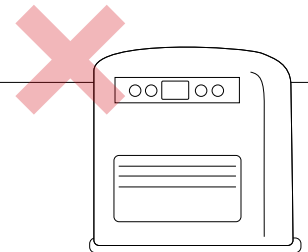
設置 守らないと感電・火災・けがの原因になります



- 頑丈なテーブルなど安定した平らな家具の上に設置する。
- コードがテーブルやカウンターの端にかからないようにする。
- 本体、コード、電源プラグに水がかからないような場所に設置する。
- 開梱時や梱包時に落としたり、硬いものをぶつけないように注意する。



- 不安定な場所に設置しない。
- 傾いた場所、高い場所に設置しない。
- オープン、暖房器具、コンロなど熱源の近くに設置しない。
- 湿気の多い部屋や流し台の近くに設置しない。



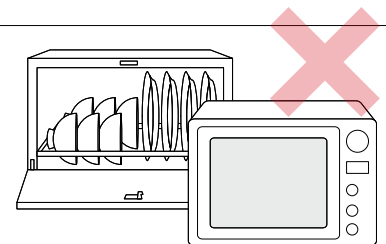
お手入れ 守らないと感電・故障の原因になります



- お手入れは取扱説明書の指示に従い、パーツを取り外して行う。
- お手入れは電源スイッチを切り、必ず電源プラグを抜いてから行う。



- パーツ類は食器洗い乾燥機で洗浄しない。
- ジェット水、スチームクリーナーやエアダスターで洗浄・清掃しない。
- パーツ類の乾燥に電子レンジを使わない。
- 本体に直接水をかけない。
- カッターは鋭利なので直接手で触れない。



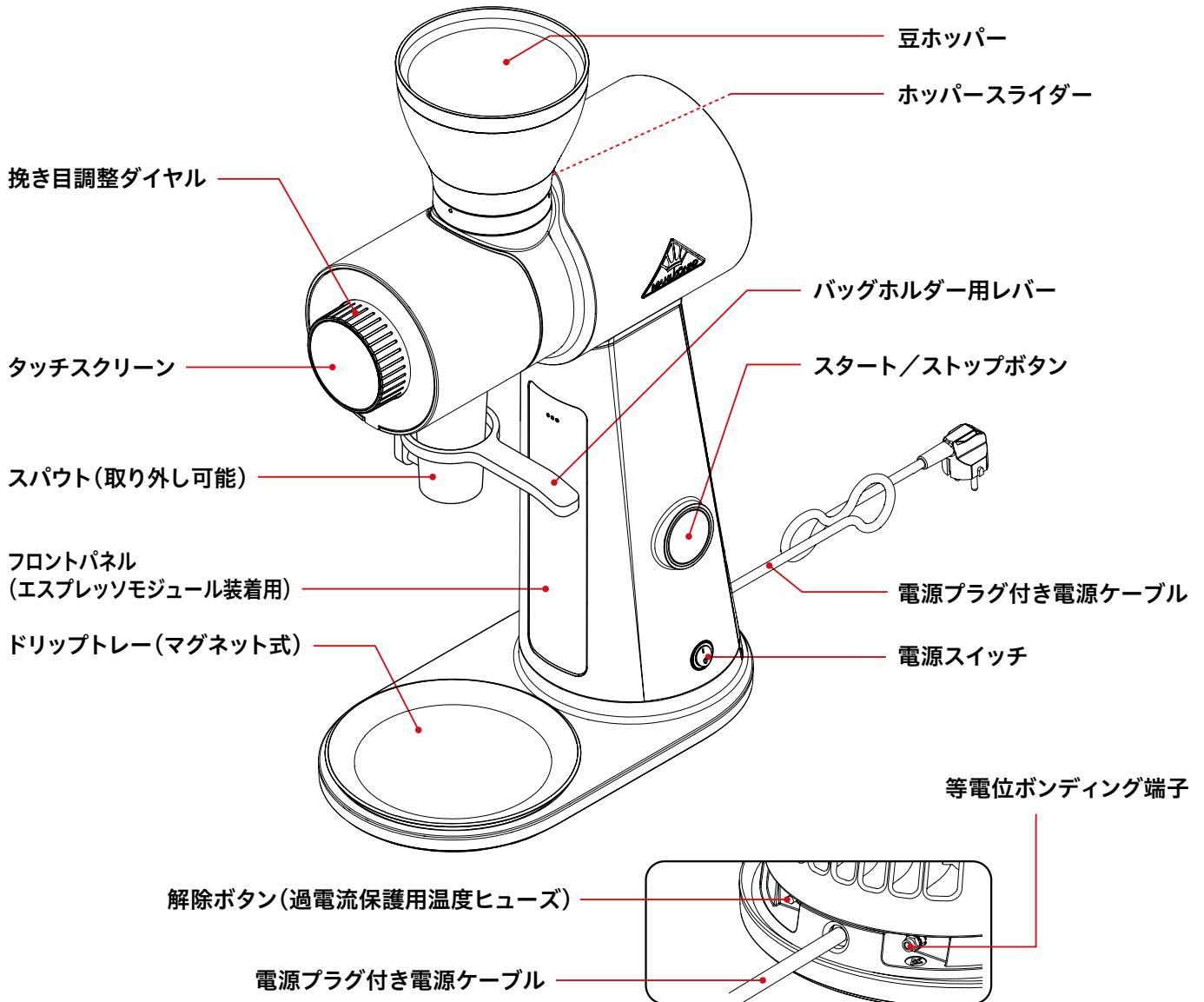
廃棄 守らないと近隣・行政の迷惑になります



- 廃棄する場合は市町村のごみ出し基準に従う。

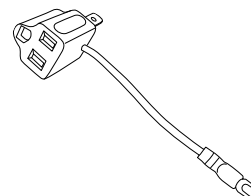
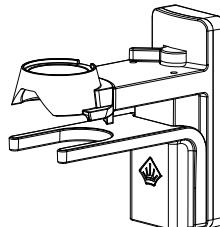
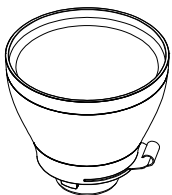
2 製品概要

2.1 各部名称



2.2 付属品

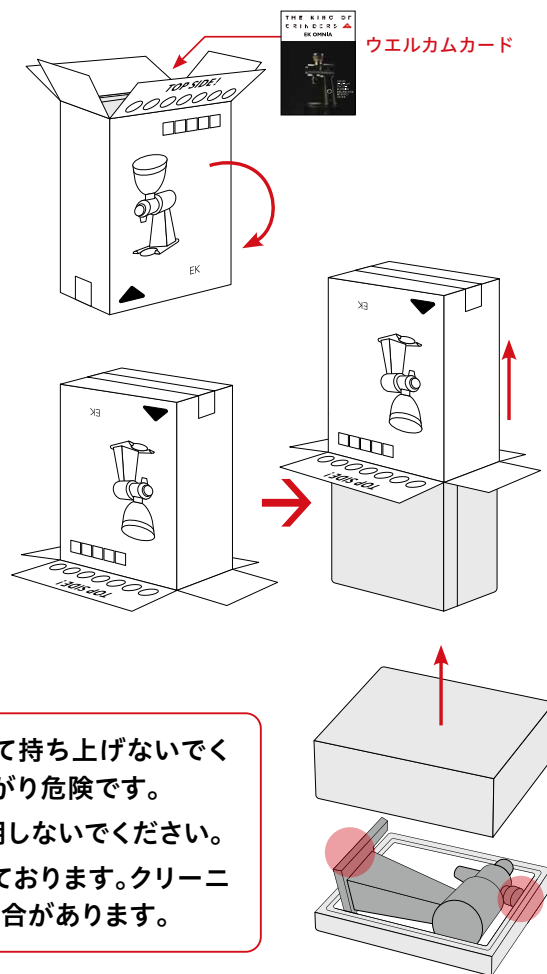
- ①豆ホッパー250g ②ドリフトレー ③エスプレッソモジュール ④プラグアダプター ⑤ウェルカムカード



3 初回起動

3.1 開梱

- 1 箱の天面を開けます。
- 2 ウェルカムカード(付属品)が入っていることをご確認ください。取扱説明書(本書)にアクセスしていただくQRコードの記載があります。大切に保管してください。
→ P24 …11「メンテナンスと修理」参照
- 3 段ボールの開口部を開いた状態で、天地を逆さにして段ボールを上方向に抜き取ることで、緩衝材に入った製品を取り出します。
- 4 緩衝材のいずれか片方を平らな床に置いて、上面の緩衝材を取り外します。製品本体と付属品をご確認ください。
- 5 製品本体の底面と豆ホッパーアダプターの2点を保持して本体を取り出します。



注意

- バッグホルダーや挽き目調整ダイヤル、スパウトを持って持ち上げないでください。バッグホルダーの破損や製品本体の落下につながり危険です。
- グライNDERを湿っている場所や、濡れている場所で使用しないでください。
- 製品をお届けする前に、コーヒー豆を挽いて点検を行っております。クリーニングして梱包しておりますが、コーヒー粉が残っている場合があります。

3.2 グライNDERと付属品を確認する



注意

破損のおそれがあります

鋭利な刃物や尖った物で不用意に梱包材を切り開くと、グライNDERを損傷するおそれがあります。開封時は十分に注意してください。

- 1 グライNDERを梱包から取り出します。
- 2 付属品がすべて揃っていることを確認します。→ P5 …2「製品概要」参照
- 3 グライNDERおよび各部品に破損がないか確認してください。破損がみられる場合はグライNDERを使用しないでください。この場合、グライNDERを購入した販売店、またはメリタジャパン株式会社お客様相談室にお問い合わせください。→ P24 …11「メンテナンスと修理」参照



Information

グライNDERは納品前に多くの機能テストを行っているため、コーヒー粉が残っている可能性があります。

3.3 グライNDERの設置・接続



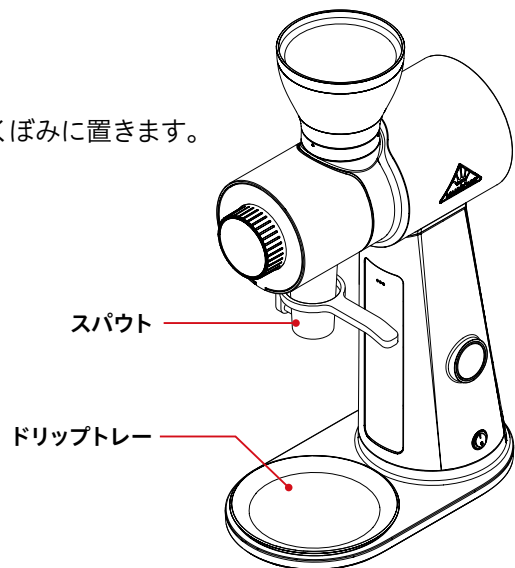
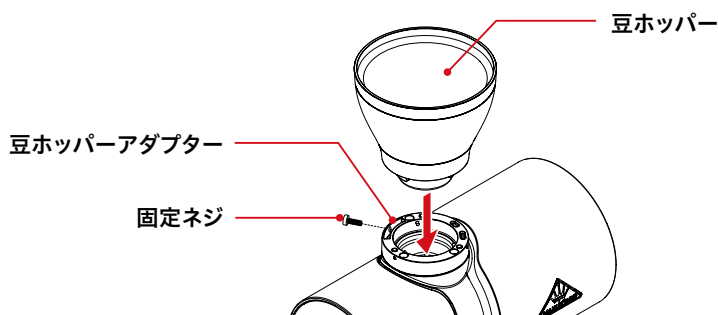
注意

破損のおそれがあります

不適切な取り扱いはグラインダーを破損させるおそれがあります。

- グラインダーを傾ける場合はいずれの方向に対しても最大10°までです。

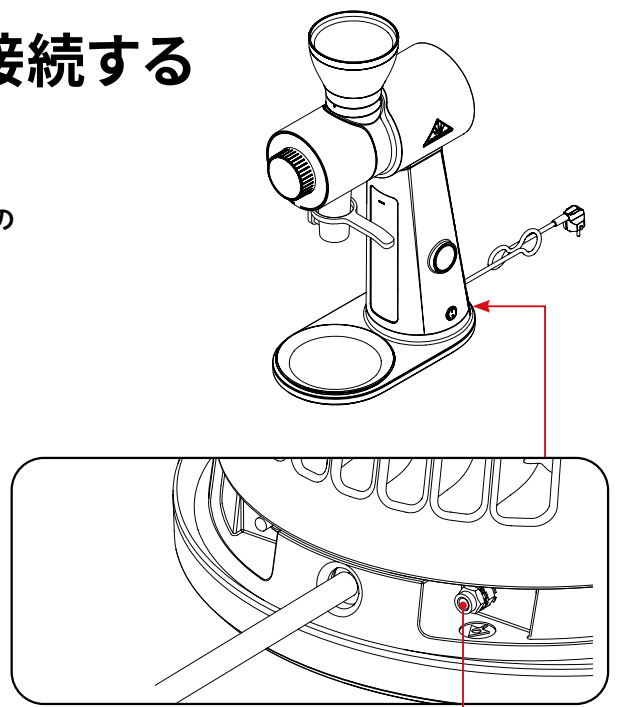
- 1 耐荷重が十分にある安定した水平な設置台上に載せます。
- 2 本体に豆ホッパーを取り付け、固定ネジで固定します。
→ P10...5.1「豆ホッパーの取り付け/取り外し」参照
- 3 マグネット式ドリフトレーをスパウトの下にある本体底面のくぼみに置きます。
- 4 電源プラグをコンセントに差し込みます。



3.4 等電位ボンディングを接続する

等電位ボンディング接続部はグラインダーの背面にあります。
ボンディングケーブルの接続と機能確認は電気工事士など専門の電気技師に依頼してください。

- 1 等電位ボンディング部のロックナットを緩め、取り外します
- 2 固定リングとワッシャーを取り外します。
- 3 等電位ボンディングケーブルを等電位ボンディング接続部に接続します。
- 4 固定リング、ワッシャーの順で等電位ボンディングケーブルを押さえ、ロックナットをねじ込んで固定し、ケーブルを固定します。



等電位ボンディングケーブル



注意

等電位ボンディングケーブルは付属品に含まれていません。

最小断面2.5mm²(保護)または4mm²(非保護)の銅製の等電位ボンディングケーブルをご使用ください。
ご不明な点はメリタジャパンお客様相談室にお問い合わせください。

4 グライNDERの仕組み

グランド工程に応じて、以下の3つの操作モードのいずれかを選択します。
各操作モードは、設定メニュー(「Settings」→「Customization」)から調整および非表示にすることができます。

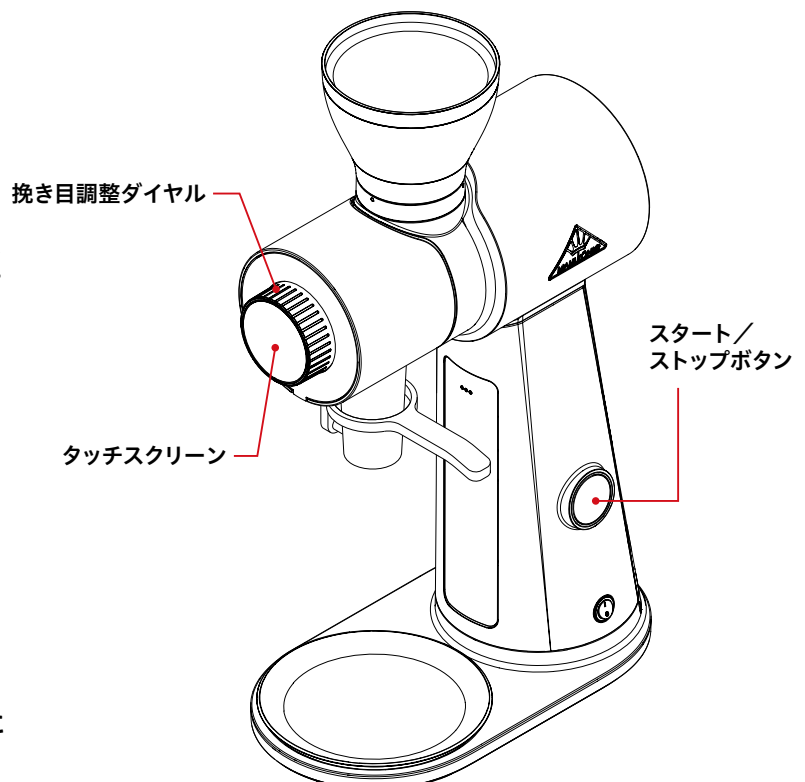
4.1 Classicモード

- 1 Classicモードの場合、豆挽き時間に基づいて手動で豆挽きを制御します。挽き目調整ダイヤルを使用して、目的の挽き具合を手動で設定することもできます。さらに、タッチスクリーン上で挽き目の微調整(1マイクロメートル単位の精度)を直接行うことができます。
→ P18…7.1「挽き目の調整」参照
- 2 スタート/ストップボタンを押すと豆挽きが始まります。もう一度スタート/ストップボタンを押すと豆挽きが停止します。
- 3 Classicモードを使用すると、タッチスクリーンに豆挽き時間の経過が表示されます。

4.2 Timeモード

- 1 Timeモードでは、選択したレシピに基づいて豆挽きを制御します。最大6種類のレシピを設定できます。
- 2 抽出量と挽き具合の希望の値はレシピに保存されます。抽出量(それぞれの挽き豆量)は、豆挽き時間によって定義されます。
- 3 スタート/ストップボタンを押すと豆挽きが始まります。グランド工程は、レシピに設定された豆挽き時間で自動的に終了します。

Timeモードを使用すると、タッチスクリーンに経過した豆挽き時間が表示されます。



納品時は3種類のレシピが設定されています。



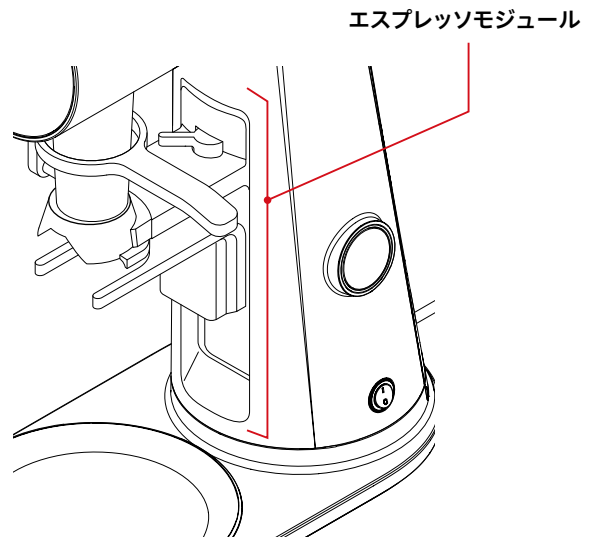
豆挽き時間1秒、グランドディスク間隔100 μ m。

豆挽き時間1.5秒、グランドディスク間隔100 μ m。

豆挽き時間2秒、グランドディスク間隔100 μ m。

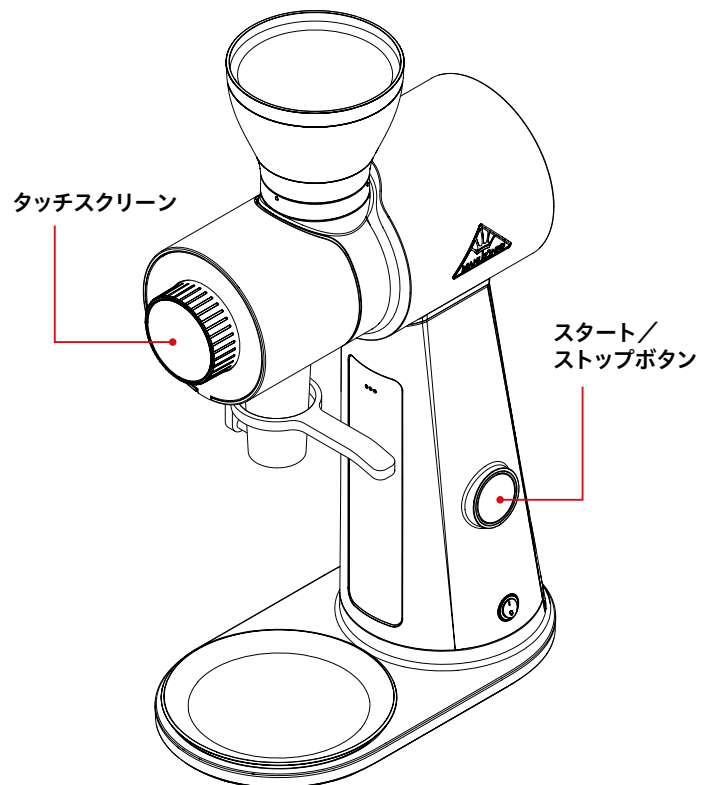


Timeモードでは、コーヒー豆のタイプや挽き目を変える場合、挽き時間を調整して挽き量をご確認ください。エスプレッソの場合は、エスプレッソモジュールを取り付け、レシピごとに統一された挽き目を設定することが推奨されています。



4.3 Libraryモード

- 1 Libraryモードでは、特定の豆の種類や抽出方法に応じて、レシピを使って豆挽きを制御します。
- 2 最大20種類の豆を登録でき、豆の種類ごとに最大6種類のレシピを登録できます。
- 3 **【重要】各コーヒー豆のレシピには、挽き目の細かさやモーター回転数などの希望する値を登録できますが、抽出量は登録できません。**豆挽きの開始と停止は、(Classicモードと同様に)手動で行います。
- 4 スタート/ストップボタンを押すと豆挽きが始まります。もう一度スタート/ストップボタンを押すと豆挽きが停止します。
- 5 Libraryモードを使用すると、タッチスクリーンに豆挽き時間の経過が表示されます。



5 基本的な取り扱い

5.1 豆ホッパー取り付け／取り外し



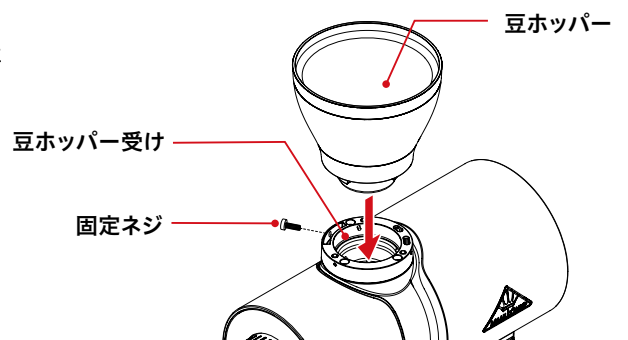
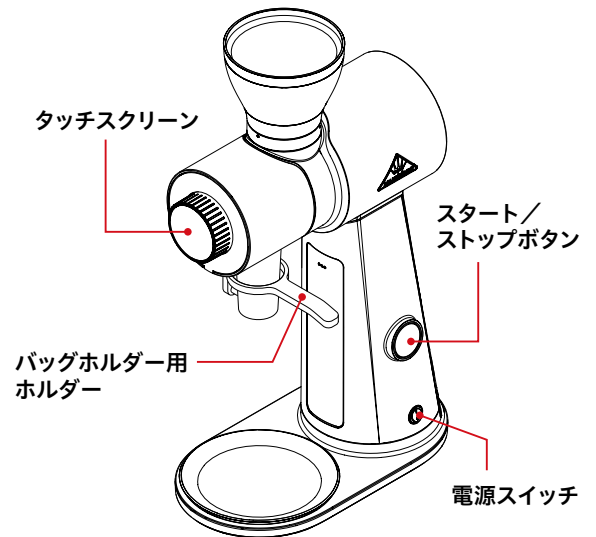
豆挽きを開始するには、豆ホッパーが正しく装着されている必要があります。豆ホッパーが挿入されていない場合は豆挽きを開始できず、この場合、タッチスクリーンにエラーメッセージが表示されます。



付属のコーヒー豆ホッパーのほかに、オプションで他のサイズの豆ホッパー もご用意しています。
→ P25…12「セルフパーツ」参照

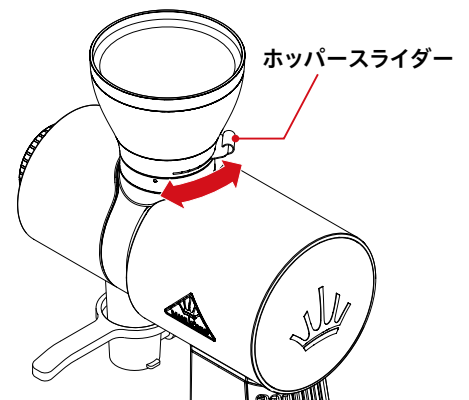
豆ホッパーの取り付け

- 1 グラインダーの電源スイッチがオフになっていること（電源スイッチが位置0[ゼロ]に設定されていること）を確認し、電源プラグを抜きます。
- 2 豆ホッパーを豆ホッパーアダプターに取り付けます。豆ホッパーを装着するときは、豆ホッパーの突出部分が豆ホッパー受けの対応するくぼみと合うように挿入していきます。
- 3 豆ホッパーを豆ホッパー受けに押し込み、豆ホッパーを時計回りに回してグラインダーに固定します。豆ホッパーを回しても固定できない場合は、豆ホッパーが正しく装着されていない可能性があります。この場合、豆ホッパーの位置を正しく合わせ、再度豆ホッパーを押し下げたり回したりして修正してください。
- 4 豆ホッパーの固定ねじを時計回りに締め付けます。



豆ホッパーの取り外し

- 1 ホッパースライダーが開いている状態の場合、ホッパースライダーを押し込んで豆ホッパー内のコーヒー豆がグラインダー内部に落ちないようにします。
- 2 グラインダーが空挽き状態になるまで、グラインダーに残っている豆をClassicモードで挽いてください。
→ P14…6.1「Classicモードでの手動豆挽き」参照
- 3 豆ホッパーの固定ねじを反時計回りに数回転緩めます。
- 4 豆ホッパーを反時計回りに回して緩め、持ち上げてグラインダーから外します。



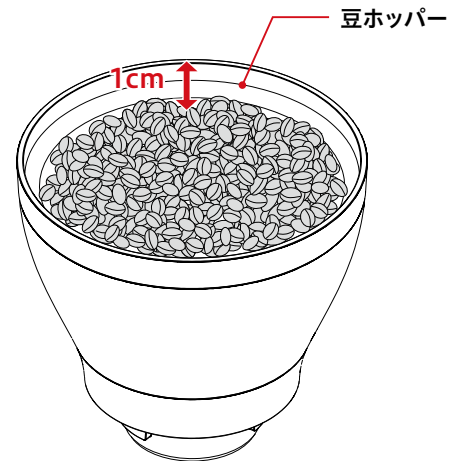
5.2 豆の投入



付属のコーヒー豆ホッパーのほかに、オプションで他のサイズの豆ホッパーもご用意しています。
→ P25…12「セルフパーツ」参照



最大投入量は、豆ホッパーの縁から約1cm下の高さまでです。挽き量のばらつきを抑えるため、最小充填量はフィンガーブロックの上、約1cmの高さにする必要があります。



- 1 豆ホッパーのフタを取り外します。
- 2 十分に焙煎したコーヒー/エスプレッソ豆を豆ホッパーの上部から投入してください。
- 3 豆ホッパーにフタをします。

5.3 グライNDERの電源を入れる

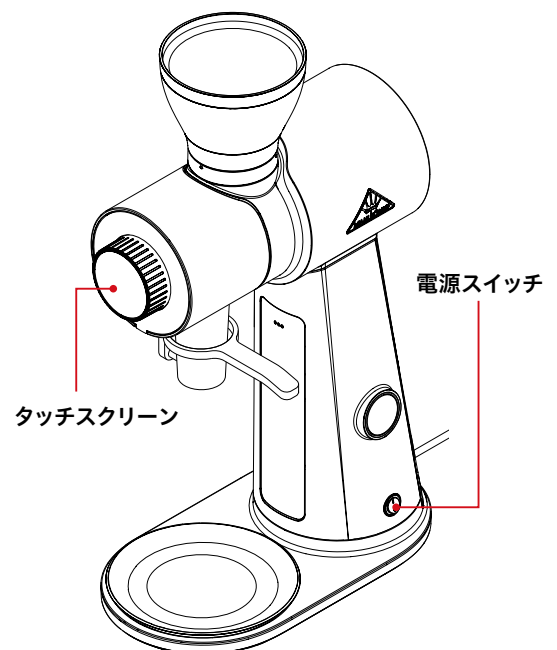
- 1 電源プラグが正しく取り付けられたコンセントに差し込まれていることを確認してください。
- 2 電源スイッチの「I」側を押して、グラインダーの電源を入れます。タッチスクリーンに最後に選択したレシピまたはモードが表示されます。これでグラインダーは起動状態です。



付属のコーヒー豆ホッパーのほかに、オプションで他のサイズの豆ホッパーもご用意しています。
→ P25…12「セルフパーツ」参照



最大投入量は、豆ホッパーの縁から約1cm下の高さまでです。豆の量のばらつきを避けるため、最小充填量はフィンガーブロックの上、約1cmの高さにする必要があります。

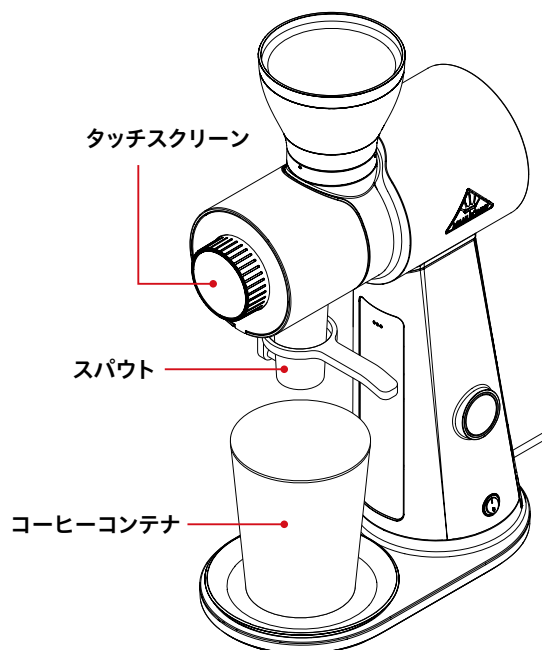


5.4 モードを選択する

タッチスクリーンを垂直（上または下）にスワイプして、目的のモードを選択してください。またはタッチスクリーンの左端にある目的のモードの記号を1回短くタップします。

5.5 レシピを選択する

- 1 TimeモードまたはLibraryモードでは、タッチスクリーンを水平(左または右)にスワイプして、目的のレシピを選択します。
またはタッチスクリーンに表示されているレシピ記号を1回軽くタップすると、利用可能なレシピ(各モード用)の概要が表示されます。レシピはそれぞれのレシピ記号の形式で表示されます。
概要から目的のレシピを選択するには、以下の操作を行ってください。
- 2 タッチスクリーンを垂直(上または下)にスワイプし、レシピ記号を使用して目的のレシピを選択します。
- 3 対応するレシピ記号を1回短くタップして選択を確定し、目的のレシピに切り替えます。

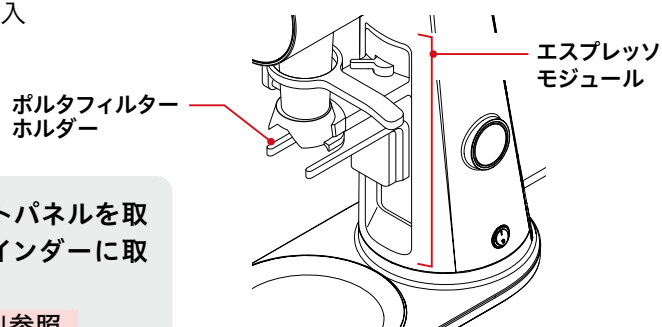
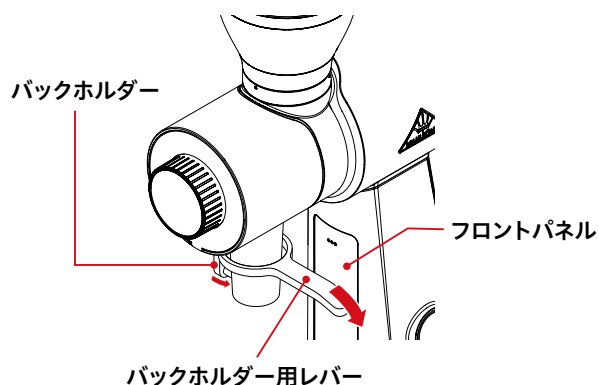


5.6 豆の種類を選択する

- 1 Libraryモードで、タッチスクリーンに表示されている豆の種類を1回軽くタップします。
タッチスクリーンは、記録された豆の種類の概要に切り替わります。
- 2 タッチスクリーンを垂直(上または下)にスワイプして、使用する豆の種類を選択してください。
- 3 使用する豆の種類を1回短くタップして選択を確定し、その豆の種類のレシピ表示に切り替えます。

5.7 コーヒーコンテナをセットする

- 1 コーヒーコンテナをスパウトのすぐ下にセットします。
またはコーヒーバッグをバックホルダーに挟んでください。
- 2 バッグホルダー用レバーを押し下げ、バッグを所定の位置に保持し、再度レバーを放します。コーヒーバッグはスパウトとバックホルダーの間に挟まれた状態になります。
またはポルタフィルターをポルタフィルターホルダーに挿入します。



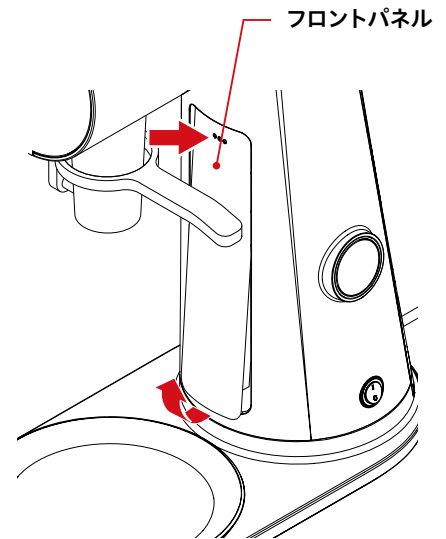
ポルタフィルターを使用する場合は、まずフロントパネルを取り外し、代わりにエスプレッソモジュールをグラインダーに取り付けます。

→ P13…5.8「エスプレッソモジュールの取り付け」参照

5.8 エスプレッソモジュールの 取り付け／取り外し

エスプレッソモジュールの取り付け

- 1 グラインダーのフロントパネルを取り外します。
フロントパネルを取り外すには、上端のマークを少し力を入れて押します。これにより、フロントパネルがグラインダー本体から傾き、マグネット式ロックが解除されます。その後、傾いたフロントパネルをグラインダー本体から取り外すことができます。
- 2 エスプレッソモジュールをグラインダーに取り付けます。
エスプレッソモジュールを取り付けるには、まずエスプレッソモジュールの下部をグラインダー本体に差し込み、次にエスプレッソモジュール上部を同じくグラインダー本体に回し入れます。
- 3 ロックレバーをスライドさせて、グラインダーにエスプレッソモジュールを固定します。
- 4 お使いのポルタフィルターに合わせて、ポルタフィルターホルダーを調整してください。
→ P13...5.9「ポルタフィルターホルダーの調整」参照

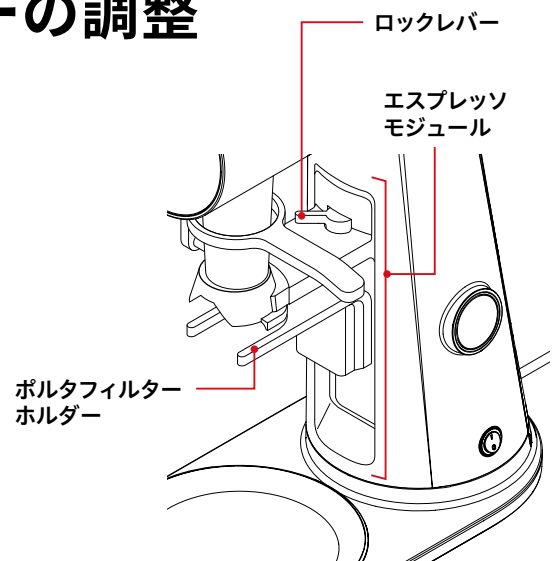


エスプレッソモジュールの取り外し

- 1 ロックレバーをスライドさせて、エスプレッソモジュールの固定具をグラインダーから外します。
- 2 グラインダー本体からエスプレッソモジュールを取り出します。
- 3 グラインダーにフロントパネルを取り付けます。
エスプレッソモジュールを取り付けるには、まずエスプレッソモジュールの下部をグラインダー本体に差し込み、次に上部を同じくグラインダー本体に回し入れます。フロントパネルは、グラインダーに磁力で固定されます。

5.9 ポルタフィルターホルダーの調整

- 1 エスプレッソモジュールをグラインダー本体から前方に向かって外します。
- 2 ポルタフィルターホルダーにあるネジを緩めます(反時計回りに回します)。
- 3 ポルタフィルターをポルタフィルターホルダーに挿入します。
- 4 ポルタフィルターホルダーを、お使いのポルタフィルターの高さに合わせます。
- 5 ポルタフィルターホルダーのネジを再び締め付けて(時計回りに)、ポルタフィルターホルダーを正しい位置に固定します。
- 6 エスプレッソモジュールをグラインダー本体に取り付けます。



6 豆を挽く

過熱の危険

最大許容運転サイクルを超えると、グラインダーが過熱する可能性があります。



注意

- 最大許容運転サイクルを超えないようにしてください。
標準運転：挽き時間120秒/300秒止め
エスプレッソ：挽き時間1.5秒/5秒止め
- 最大許容運動サイクルに達した場合は、推奨休止時間を守ってください。

破損の恐れ



注意

オペレータはサーマル過電流回路ブレーカーに影響を与えません。過電流保護用温度ヒューズが繰り返し作動する場合は、指定のサービス担当者にご相談ください。モーターコイルが破損している可能性があります。



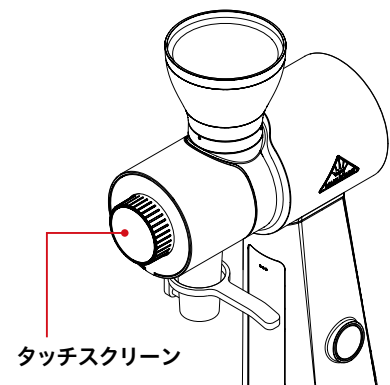
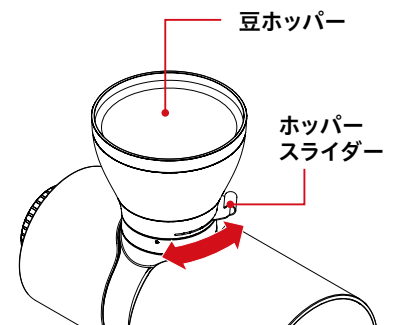
Information

グラインダーには過電流保護用温度ヒューズがあり、過電流が起きた時にグラインダーの電気回路を遮断します。グラインダーを再び始動させるには、電源スイッチをスイッチ位置0(オフ)に設定します。その後、解除ボタンを押し込みます。電源スイッチを「I」に入れ、グラインダーの電源を再びオンにすることで、グラインダーを運転できる状態に戻します。→ P23…10「トラブルシューティング」参照

さらに、グラインダーにはモータープロテクターがあり、モーターが過度に熱くなった場合はグラインダーの電源が切れる仕様になっています。モーターが冷えるとすぐに、グラインダーを再度操作することができます。→ P23…10「トラブルシューティング」参照

6.1 Classicモードでの手動豆挽き

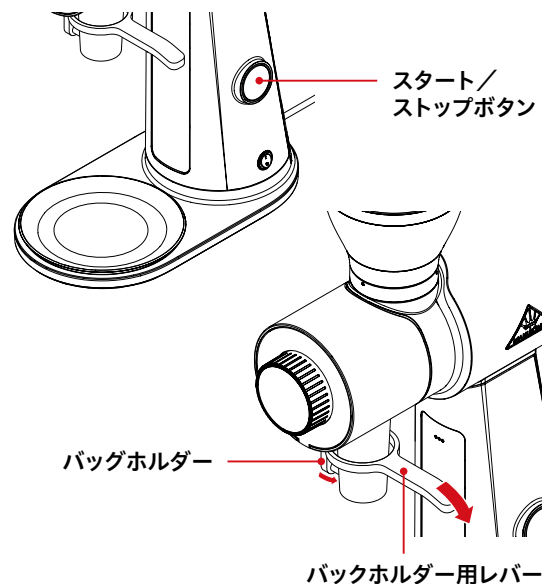
- 1 グラインダーのスイッチがオンになり、挽きたいコーヒー豆が投入されていることを確認してください。
→ P11…5.2「豆の投入」/5.3「グラインダーの電源を入れる」参照
ホッパースライダーを押し込んで、コーヒー豆がグラインダー内部に入らないようにします。
- 2 必要に応じて、垂直にスワイプするか、タッチスクリーンのモード記号を軽くタップしてClassicモードに切り替えます。
→ P11…5.4「モードを選択する」参照
タッチスクリーンには、設定した挽き具合(μm)とモーター回転数(rpm)が表示されます。
- 3 コーヒーコンテナを設置するか、またはポルタフィルターをポルタフィルターホルダーに配置してください。
→ P12…5.7「コーヒーコンテナをセットする」参照
- 4 挽き目を設定します。
→ P18…7.1「挽き目の調整」参照



Information

モーター回転数は500~1500rpmの範囲で設定できます。モーター回転数を下げることで、コーヒーの飛散を改善できる場合があります。

- 5 豆挽きを開始するには、スタート/ストップボタンを押します。
- 6 ホッパースライダーを引き出します。豆はホッパーからグラインダー内部に入ります。挽いたコーヒー豆はスパウトからコーヒーコンテナ/ポルタフィルターに落ちます。タッチスクリーンには豆挽き時間の経過が表示されます。
- 7 豆が完全に挽かれ、モーターが空挽き状態になったら、もう一度スタート/ストップボタンを押して豆挽きを停止します。
- 8 バッグホルダー用レバーを使用してスパウト内部のコーヒー粉を取り除いてください。その場合は、バッグホルダー用レバーを押し下げ、その後レバーを離してください。スパウトから挽いたコーヒー粉が排出されなくなるまで、この操作を繰り返してください。



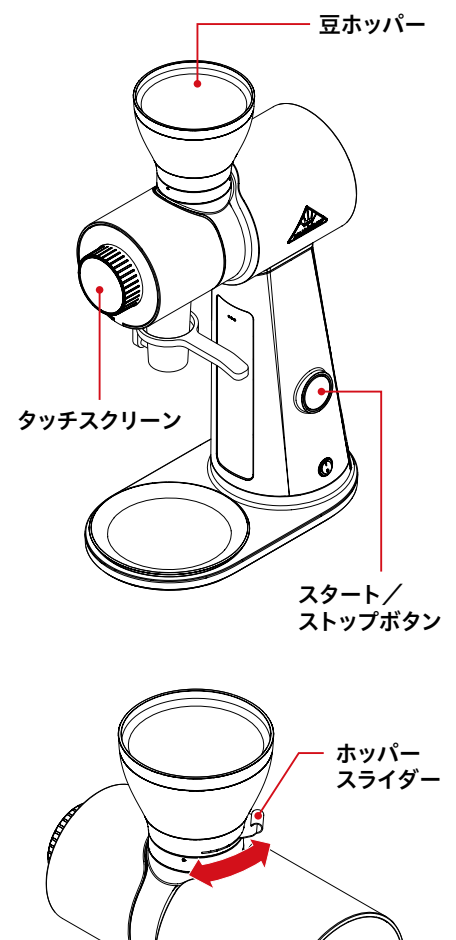
6.2 Timeモードでのレシピに応じた豆挽き



Information

時間に応じた豆挽きをするには、まず目的のレシピを定義する必要があります。

- 1 グラインダーのスイッチがオンになり、挽きたいコーヒー豆が投入されていることを確認してください。
→ P11…5.3「グラインダーの電源を入れる」/5.2「豆の投入」参照
- 2 必要に応じて、ホッパースライダーを引き出します。
- 3 必要に応じて、垂直にスワイプするか、タッチスクリーンのモード記号を軽くタップしてTimeモードに切り替えます。
→ P11…5.4「モードを選択する」参照
- 4 コーヒーコンテナを設置するか、またはポルタフィルターをポルタフィルターホルダーに配置してください。
→ P12…5.7「コーヒーコンテナをセットする」参照
- 5 必要に応じて、タッチスクリーンを水平にスワイプして、目的のレシピに切り替えます。
→ P12…5.5「レシピを選択する (Timeモード/Libraryモード)」参照
タッチスクリーンには、レシピのアイコン、設定された挽き目/グラインドディスクの間隔(μm)、モーター回転数(rpm)、豆挽き時間(秒)が表示されます。
必要に応じて、レシピの詳細を変更します。
→ P18…7.2「既存レシピの変更」参照
- 6 挽き目を設定します。
→ P18…7.1「挽き目の調整」参照
- 7 豆挽きを開始するには、スタート/ストップボタンを押します。グラインダーが豆を挽き、挽いたコーヒー粉はスパウトからコーヒーコンテナ/ポルタフィルターに落ちます。タッチスクリーンには豆挽き時間の経過が表示されます。指定された豆挽き時間に達すると、豆挽きは自動的に停止します。



Information

Timeモードでは、コーヒー豆の種類や挽き目を変えるとコーヒー粉量が変わることがありますので、コーヒー豆の種類や挽き目に合わせて挽き時間を調整してください。

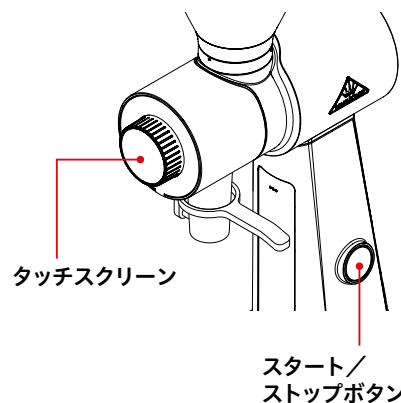
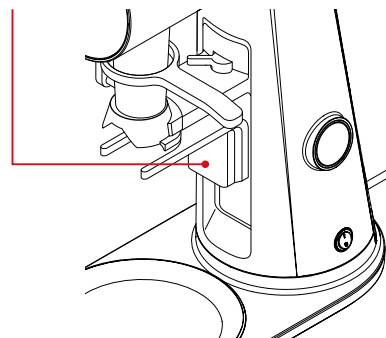
6.3 Libraryモードでのレシピに応じた豆挽き



レシピに応じた豆挽きをするには、まず目的のレシピを定義する必要があります。

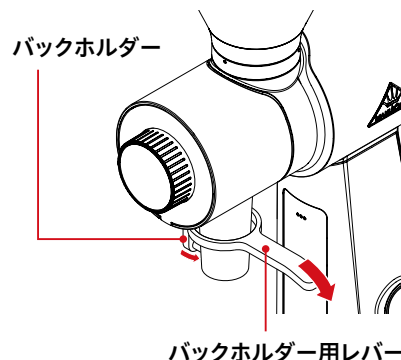
- 1 グライNDERのスイッチがオンになり、挽きたいコーヒー豆が投入されていることを確認してください。
→ P.11…5.3「グラインダーの電源を入れる」/5.2「豆の投入」参照
- 2 コーヒーコンテナを設置するか、またはポータフィルターをポルタフィルターホルダーに配置してください。
→ P.12…5.7「コーヒーコンテナをセットする」参照
- 3 必要に応じて、垂直にスワイプするか、タッチスクリーンのモード記号を軽くタップしてLibraryモードに切り替えます。
→ P.11…5.4「モードを選択する」参照
- 4 必要に応じて、ご希望の豆の種類に変更してください。
→ P.12…5.6「豆の種類を選択する(Libraryモード)」参照
- 5 豆の種類を選択した後:タッチスクリーン上で左右にスワイプして、その豆に対応する利用可能なレシピを確認し、希望のレシピを選択します。タッチスクリーンには、コーヒー豆の種類、挽き目(μm)、豆挽き重量(g)、レシピのアイコンが表示されます。必要に応じて、レシピの詳細を変更します。
→ P.18…7.2「既存レシピの変更」参照
- 6 豆挽きを開始するには、スタート/ストップボタンを押します。グラインダーが豆を挽き、挽いたコーヒー豆はスパウトからコーヒーコンテナ/ポルタフィルターに落ちます。タッチスクリーンには豆挽き時間の経過が表示されます。
- 7 豆が完全に挽かれ、モーターが空挽き状態になったら、もう一度スタート/ストップボタンを押して豆挽きを停止します。
- 8 バックホルダー用レバーを使用して、スパウトに付いているコーヒー粉をふるい落とします。その場合は、バックホルダー用レバーを押し下げ、その後レバーを離してください。スパウトから挽いたコーヒー粉が排出されなくなるまで、この操作を繰り返してください。

ポルタフィルターホルダー



タッチスクリーン

スタート/ストップボタン



バックホルダー

バックホルダー用レバー

6.4 豆挽きを中断する

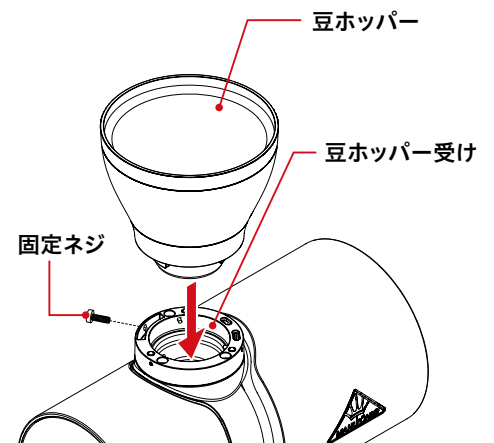


選択したモードに関係なく、いつでも進行中の豆挽きを中断できます。

進行中の豆挽きを停止するには、スタート/ストップボタンを押します。

6.5 豆の種類の変更

- 1 豆ホッパーをグラインダーから取り外します。
→ P10…5.1「豆ホッパーの取り付け/取り外し」参照
ホッパースライダーを閉じ、グラインダー内に残った豆を完全に挽いてから豆ホッパーを取り外してください。
- 2 必要に応じて、豆ホッパーに残った豆を別の容器に移してください。
- 3 豆ホッパーを再度設置し、固定ねじで固定します。
→ P10…5.1「豆ホッパーの取り付け/取り外し」参照
- 4 新しいコーヒー豆を豆ホッパーに投入してください。
- 5 ホッパースライダーを開いて、コーヒー豆をグラインダー内部に入れます。
- 6 2から3ショット分の豆を挽いて、以前使用していたコーヒー粉を取り除きます。



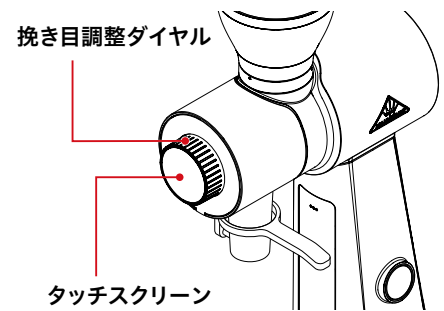
7 設定操作

7.1 挽き目の調整



グラインダーには、グラインドディスク間 (0-800 μ m) の距離を基に挽き目を調整し、ディスク距離を検知するDDD (Disc Distance Ditection) 機能が搭載されています。 μ mの値が大きいほど、グラインドディスク間の距離が大きくなり、コーヒー豆は粗く挽かれます。

- 1 挽き目調整ダイヤルを時計回りまたは反時計回りに回して、挽き目調整ダイヤル上のマークがスケール上の目的の μ m値を指すようにします。設定された μ m値がタッチスクリーンに表示されます。
- 2 必要に応じて、 μ m値を1 μ m単位で調整してください。
 - そのためには、タッチスクリーン上で設定された μ m値を1回軽くタップします。
 - タッチスクリーン上の+/-記号をタップして正確な値を設定します。



挽き目を細挽きよりに変更する場合は、グラインドディスクがロックしないよう、グラインダモーターを回転している時に行ってください。



タッチスクリーンに目的の値を入力すると、挽き目調整ダイヤルが自動的に設定値に移動します。

7.2 既存レシピの変更

既存レシピのレシピ詳細(レシピ固有のパラメータ)はいつでも変更できます。

- 1 必要に応じて、TimeモードまたはLibraryモードでタッチスクリーンを水平にスワイプして、変更したいレシピを選択します。
- 2 タッチスクリーンにレシピが表示されている状態で、変更したいレシピ固有のパラメーターを長押しします。
- 3 右表に従って選択したパラメーターを編集します。

レシピ固有のパラメータ	編集
レシピアイコン	
豆挽き時間(秒) (Timeモードの場合)	● タッチスクリーンを垂直にスワイプして選択してください。
豆挽き重量(g) (Libraryモードの場合)	● 確定するには、選択範囲を1回軽くタップします。
挽き目(μ m) (Libraryモードの場合)	● 挽き目調整するには、挽き目調整ダイヤルを時計回りまたは反時計回りに回します。 ● 挽き目を1 μ m単位で自動で調整するには、タッチスクリーンの値を1回軽くタップして、好みの挽き目を入力します。 ➔ P18...7.1「挽き目の調整」参照

8 クリーニング

注意 グライNDER外装、グランドディスクのメンテナンスやクリーニングを行う場合は、必ずコンセントから電源プラグを外した状態で行ってください。クリーニングの前に、コーヒー豆を完全に挽ききっていることをご確認ください。



けがの恐れ

移動の際にグライNDERが落下してけがをする恐れがあります。

- グライNDERは常に傾かない安定した台の上に置いてください。
- グライNDERが重すぎる場合は、必要に応じて2人以上で移動させてください。



ショートの大険

グライNDERに水を入れるとショートの原因となる恐れがあります。

- いかなる場合にも、グライNDERを水やその他の液体に浸さないでください。
- グライNDERをウォータージェットやスチムクリーナーで洗わないでください。
- 水や液体がグライNDER筐体の内部に入らないよう注意してください。



破損・色落ちの恐れ

不適切な取り扱いをした場合、グライNDERが破損・色落ちする恐れがあります。

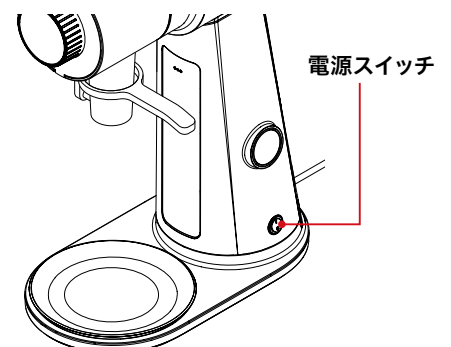
- 強力な洗浄剤、鋭利な刃物(ナイフ等)や金属製清掃用具(金属たわし等)を使用しないでください。このような用具等を使用すると、グライNDER表面に傷をつける可能性があります。
- グライNDERの清掃に圧縮空気を使用しないでください(例:エアブローの使用)。
- グライNDERの取り外し可能な部品(ドリフトレー、豆ホッパーのふた、スパウトなど)は食器洗い乾燥機にかけないでください。これらの部品は食器洗い乾燥機に適しておらず、破損・色落ちする恐れがあります。
- グライNDERは、豆ホッパー部分を持たず、必ず両手で本体を持って持ち上げてください。

8.1 グライNDER底部のクリーニング



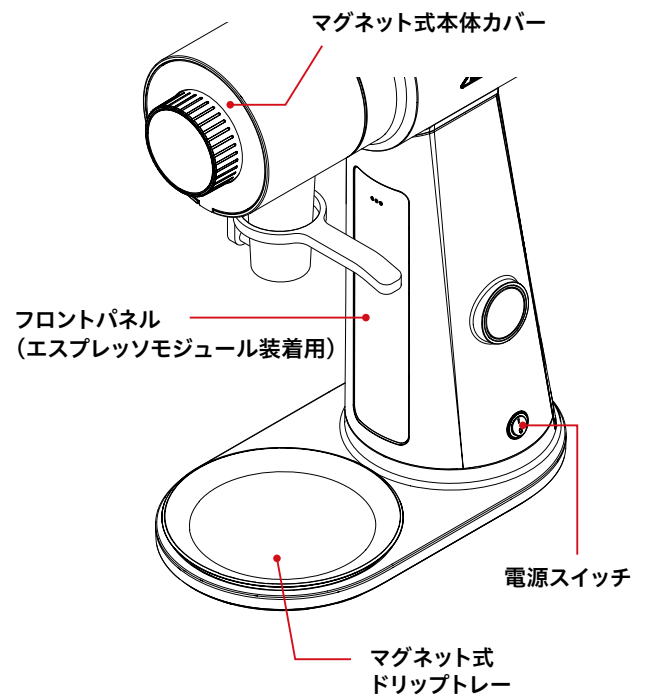
クリーニングを行う前には必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

- 1 グライNDERの電源を切り(電源スイッチを「O」の位置に)、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 2 グライNDER本体を両手で持ち上げ、別の清潔で平らな場所に置いてください。
- 3 湿らせた布で設置面とグライNDERの底部と背面を清掃し、表面を乾かします。表面に油脂が付着しないようにしてください。
- 4 グライNDERを清掃した水平な設置場所に傾かないように立てて置いてください。



8.2 本体のクリーニング

- 1 グラインダーの電源をオフにし(電源スイッチを「0」の位置にする)、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 2 マグネット式ドリフトレーを取り外します。
- 3 グラインダーの前面からマグネット式筐体カバーを取り外し、その裏側にあるコーヒーの粉などをブラシで取り除きます。
- 4 グラインダーからフロントパネル(エスプレッソモジュール装着用)を外し、ホルダーやグラインダー内部のコーヒーの粉などをブラシで取り除きます。
フロントパネルを取り外すには、上端のマークを少し力を入れて押します。これにより、フロントパネルがグラインダーのホルダーに傾き、マグネット式ロックが解除されます。その後、傾いたフロントパネルをホルダーから取り外すことができます。
- 5 必要に応じて少なくとも週に1回、本体、ドリフトレー、本体カバーおよびフロントパネルを湿らせた布で拭きます。
- 6 取り外した部品を清掃のために再度取り付けます。

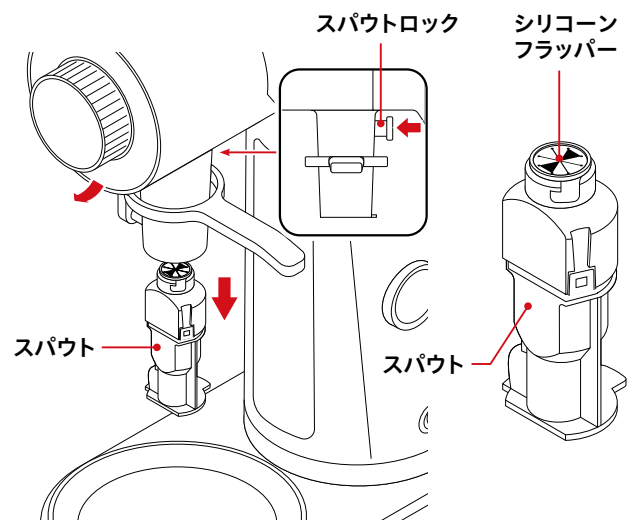


8.3 スパウトのクリーニング



スパウトの清掃のためにナイロンブラシの使用をおすすめしています。

- 1 グラインダーのホルダーからスパウトを取り外します。
スパウトロックを外側に引きながら、スパウトを下方方向に引っ張って、ホルダーから引き抜いてください。
- 2 金具のリングごとシリコンフラッパーをスパウトから取り外します。
- 3 ブラシを使ってグラインダーのスパウト本体を掃除します。
- 4 スパウトは湿った布で清掃し、その後これらのパーツを乾かします。
- 5 シリコンフラッパーを再びスパウトに挿入します。
- 6 スパウトをグラインダーのホルダーに戻します。
重要: スパウトは、取り付け位置をしっかりと確認してホルダーの正しい位置に固定してください。



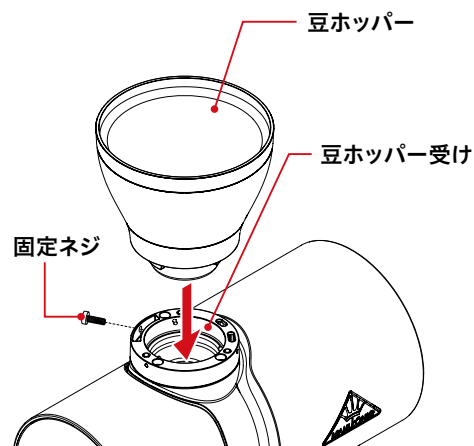
スパウトの表面を傷つけないように注意してください。細かい引っかき傷にコーヒー粉が付着することで、豆挽き結果に悪影響を及ぼし、豆の量にばらつきが生じる可能性があります。

8.4 豆ホッパーのクリーニング



豆ホッパーは、必要に応じてコーヒーの油分を取り除いて清掃してください。コーヒーの油分が残留すると風味に悪影響を与えます。

- 1 豆ホッパーをグラインダーから取り外します。
→ P10…5.1「豆ホッパーの取り付け/取り外し」参照
必ずホッパースライダーを閉じ、グラインダー内に残った豆を完全に挽いてから豆ホッパーを取り外してください。
- 2 必要に応じて、一時的に豆ホッパー内の豆を別の容器に移してください。
- 3 湿らせた布で豆ホッパーの内側と外側を清掃し、再度乾かしてください。
- 4 豆ホッパーを再度設置し、固定ねじで固定します。
→ P10…5.1「豆ホッパーの取り付け/取り外し」参照

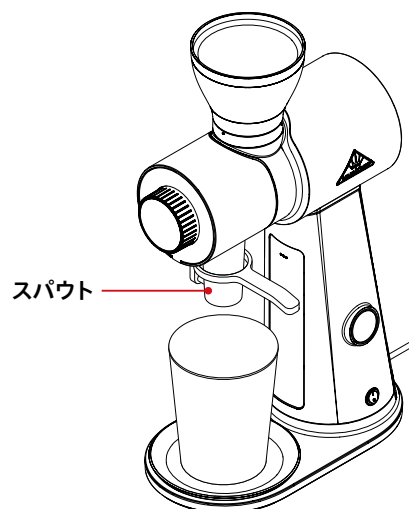


8.5 グラインダーのクリーニング



- グラインダーを清掃する場合は、適切なグラインダー用洗浄剤を使用してください。
- グラインダーは2～5日毎に清掃する必要があります。

- 1 豆ホッパーをグラインダーから取り外します。
→ P10…5.1「豆ホッパーの取り付け/取り外し」参照
必ずホッパースライダーを閉じ、グラインダー内に残った豆を完全に挽いてから豆ホッパーを取り外してください。
- 2 グラインダー洗浄剤を上から直接グラインダーに詰めてください。グラインダー洗浄剤を使用する際には、メーカーの指定する洗剤量に注意してください。
- 3 豆ホッパーを再度設置し、固定ねじで固定します。
→ P10…5.1「豆ホッパーの取り付け/取り外し」参照
- 4 ボウルをスパウトの下に置き、グラインダー洗浄剤を回収します。
- 5 グラインダーが空挽き状態になるまで、充填されたグラインダー洗浄剤をClassicモードで挽いてください。
→ P14…6.1「Classicモードでの手動豆挽き」参照
- 6 ホッパースライダーを開けます。
- 7 残っている洗浄剤の小片を取り除くため、先のグラインダー洗浄剤と同じ分量だけ豆を挽いてください。グラインド中に挽き具合を希望する設定に合わせてください。
- 8 グラインダー洗浄剤とこの時に挽いた豆は事業系一般ごみまたは家庭ごみ(可燃)として廃棄してください。



9 仕様

モデル：	EK Omnia
電圧・周波数：	100V、50/60Hz
性能：	800W
保護規格：	IPX1
保護等級：	I
ヒューズ：	16A-slow/15A
待機時回転数：	500~1500rpm
ノイズ値 (豆挽き中) ^{*1} ：	74 dBA
豆挽き性能 ^{*2} ：	11 g/s
最大許容運転サイクル ^{*3} ：	
	標準運転： 120秒運転／300秒停止 (推奨休止時間：300秒)
	エスプレッソ： 1.5秒運転／5秒停止 (推奨休止時間：5 秒)
最大豆挽き時間：	5分連続使用
最大1日処理能力 ^{*2} ：	126 kg
寸法(幅 × 高さ × 奥行)(コーヒー豆ホッパーを除く)：	約214× 663 ×390mm
重量(正味)：	約21.8kg
最大ホッパー容量：	約250g

*1 騒音レベルは管理された実験室環境で測定されています。実際の値は、使用環境や使用するコーヒー豆の種類によって異なる場合があります。

*2 挽き性能および最大の113 あたりの処理能力は、選択するコーヒー豆(例:焙煎度、密度)、選択した挽き目設定、電源電圧など、複数の要因により異なります。

*3 最大稼働サイクルを超えると、内部部品を保護するためにモーターが自動的に停止することがあります。不適切な使用により生じた損害は、保証対象外となります。

10 トラブルシューティング

問題点	原因	対処法
グラインダーは動く(作動音は鳴る)が豆は挽けない。	スパウトが詰まっている。	<p>スパウトを清掃してください。</p> <p>→P20…8.3「スパウトのクリーニング」参照</p>
	豆の量が多すぎて、グラインダーにコーヒー粉が溜まっている。	<p>その後、挽き目の設定値を最大に(μmの値を最も大きな数値)設定し直して、Classicモードでグラインドしてください。グラインダーの詰まりが解消されます。その後、お好みの挽き目の数値(μmの値)に再設定してください。</p> <p>→P18…7.1「挽き目の調整」参照</p>
	グラインダーの挽き目が細挽きすぎる。	<p>挽き目の設定値を最大に(μmの値を最も大きな数値)設定し直して、Classicモードでグラインドしてください。グラインダーの詰まりが解消されます。その後、お好みの挽き目の数値(μmの値)に再設定してください。</p>
グラインダーが豆を挽かず、タッチスクリーンが点灯しない。	異物が混入しています。	<p>グラインダーを清掃し、異物を取り除いてください。</p> <p>→P21…8.5「グラインダーのクリーニング」参照</p> <p>異物が取り除けない場合はメリタジャパンお客様相談室にお問い合わせください。</p>
	電源プラグがコンセントから抜けています。	<p>電源プラグを適切に設置されたコンセントに差してください。</p>
	過電流保護用温度ヒューズが作動しました。	<p>本体背面の解除ボタン(過電流保護用温度ヒューズ)が飛び出していないか確認してください。</p> <p>必要に応じて戻してください。</p> <p>→P5…2.1「各部名称」参照</p> <p>解除ボタンが連続して何度も飛び出す場合は、メリタジャパンお客様相談室にお問い合わせください。</p>
グラインダーが豆を挽かない。豆挽きが断続的に中断する。	家屋のメインブレーカーが落ちています。	<p>家屋の配電盤のブレーカーを確認してください。必要に応じてブレーカーを元の状態に戻してください。同一ブレーカーに他の機器が接続されていないかを確認し、接続されている場合は外してください。</p> <p>ブレーカーが繰り返し落ちる場合は、メリタジャパンお客様相談室にお問い合わせください。</p>
	スタートボタンの故障	<p>メリタジャパンお客様相談室にお問い合わせください。</p>

11 メンテナンスと修理



- 修理には専門的な知識と技術が必要です。誤った修理は火災や感電などの危険な事故につながりますので、お客様ご自身による修理はおやめください。
- メンテナンスや修理を実施する際は、必ずコンセントから電源プラグを抜いてから実施ください。定期的にマシンの電源プラグ、グラインダー本体などにダメージがないかをご確認ください。
- グラインダーのパフォーマンスが低下し、挽いた粉の温度が高い場合は、グランドディスクの交換が必要な場合があります。ディスクの交換はメリタジャパンのお客様相談室にご相談ください。



- P23「トラブルシューティング」の一覧表をお調べいただいてもなお異常がある場合は、事故防止のためグラインダーの使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いて、メリタジャパンお客様相談室にご連絡ください。その際、品名とお買い上げ時期をお知らせください。
- P25に記載している本製品のセルフパーツに関して、修理時期に別途ご請求する可能性がありますのでご了承ください。

メリタジャパンの安心・安全な修理サービスのご案内

弊社にて修理を行う際は、お客様ご自身が修理機の一時保管場所を確保したり、自ら梱包して玄関先まで運ぶ必要はありません。修理が終わったグラインダーはお届けの際に設置場所に設置させていただきます。グラインダーをお預かりしてご返却するまでの間、以下の手順で安心安全に取り扱います。北海道・本州・四国・九州・沖縄本島を除く離島はサービス対象外となります。サービス対象エリアかどうかご不明な場合は、メリタジャパンお客様相談室にお問い合わせください。

修理機のお引き取り手順

- 1 修理のご依頼はメリタジャパンお客様相談室にお問い合わせください。修理受付・修理機をお引き取りする日時を確認させていただきます。
- 2 メリタジャパンテクニカルセンターからお客様にご連絡をさせていただき、不具合の箇所をお聞きしてグラインダーのお引き取りの手配を進めます。
- 3 お引き取り日までに、グランドディスクとホッパーの間に残っているコーヒー豆を挽き切ってください。
- 4 修理機のお引き取り日当日、弊社指定のアートセッティングデリバリー株式会社からお客様にお引き取りに伺う時間帯をご連絡させていただきます。
- 5 弊社指定のアートセッティングデリバリー株式会社では、梱包資材を持参し、グラインダーを設置場所から降ろし、安全に梱包して運び出します。配送員が梱包している間に配送伝票の記載をお願い致します。

修理完了後のご返却手段

- 1 弊社からお客様に修理完了の旨をご報告し、グラインダーのご返却手続きをさせていただきます。
- 2 弊社指定のアートセッティングデリバリー株式会社がお預かりしたグラインダーのご返却に伺います。ご不在時には再配達させていただきます。
(早朝・深夜の時間帯、ご希望に添えない時間帯がございますのでご了承ください)
- 3 アートセッティングデリバリー株式会社では、ご返却の際、グラインダーをご希望の設置場所に設置し、梱包資材を回収させていただきます。

12 セルフパーツ

<p>スパウト (フラッパー付き) 品目コード 48170</p>		<p>250gホッパー 品目コード 36409</p>	
<p>ドリフトレー 品目コード 48172</p>		<p>1200g ホッパー 品目コード 40874、 322700610</p>	
<p>フラッパー 品目コード 48171</p>		<p>1800g ホッパー 品目コード 40992</p>	
<p>ポルタフィルター ホルダー (ポルタフィルター アウトレット付き) 品目コード 48173</p>		<p>グラインダークリーン 品目コード 46377</p>	
<p>ステンレススチール カップ 220ml 品目コード 40807</p>			
<p>ステンレススチール カップ 500ml 品目コード 48196</p>			

13 保証規定

●対象マシン

本取扱説明書に記載のマシン

●保証サービス規定 (持込「宅配」修理サービス)

メリタジャパン株式会社(以下「メリタ」といいます)は、本取扱説明書記載のマシン(以下「本製品」といいます)を対象として、以下の保証サービス規程に定めるところに従い、無償修理を提供します(以下「本保証」といいます)。

第1条. 保証範囲

1. 本保証は、本製品の取扱説明書や注意書に従って正常に使用したにもかかわらず、本製品に生じた電氣的・機械的故障で且つ、本製品のメーカーにより規定される保証規程にて保証対象となる故障(以下「自然故障」といいます。)を対象とします。
2. 第10条で定める「保証の適用除外事項」に該当する場合には、自然故障であっても本保証の対象外とします。

第2条. 保証期間

保証期間は、納入日当月より起算してその翌月から1年間とします。保証期間内において本製品に係る修理回数に制限はないものとします。

保証期間内に初期不良等によりメリタより交換品(新品)が提供された場合であっても、その他事由の如何を問わず、保証終了日は変更されないものとします。

第3条. 保証内容及び費用

保証期間内に本製品に自然故障が発生した場合には、当該自然故障に係る保証修理に要する金額(以下「保証費用」といいます。消費税込)が、購入金額を超えない範囲で保証修理を行います。なお、修理見積りが購入金額を超えた場合は、差額をご負担いただくことで修理いたします。保証修理は、部品の交換あるいは補修により行います。なお、取り外した部品はメリタの所有となります。

第4条. 保証の終了

以下の事項に該当する場合には、本保証は終了となります。

1. 第2条に定めるところに従い、保証期間が満了した場合。

2. 本製品のメーカーの倒産、事業撤退、修理部品の供給停止、その他本製品のメーカーがその責任により本製品の修理を行えず、又は修理のための部品等の供給を行えない状態となった場合(事業承継等により、本製品のメーカーと同水準・同条件にて修理を行う者が存在する場合、又は代替品の提供が可能な場合は除く)。
3. 本製品が第三者に転売、譲渡された場合(第7条)。

第5条. お客様のご負担となる主な費用

以下に定める費用は、本保証の保証費用には含まれず、専らお客様のご負担によるものとします。但し、以下に定める費用は例示であり、本保証の保証費用に含まれない費用を、これらに限定する趣旨ではありません。

1. 本製品の修理方法を問わず、メリタの定める離島及び遠隔地の場合における、保証修理に要する運賃・コレクト手数料等。
2. 本製品の設置・工事費用及び本製品の処分に係る費用。
3. 本保証利用時にお客様からのご連絡に必要な費用、その他通信費用。
4. 本保証の対象外となる故障及び当該故障の修理に必要な費用。
5. 本保証の対象外となり、保証修理をキャンセルされた場合に必要となる技術費用、出張費用、物流費用、見積費用等の一切の費用。
6. 修理以外の点検費用や本製品の消耗品についての費用。

第6条. 保証修理の依頼方法

1. 保証期間内に本製品に自然故障が発生した場合には、お客様は、メリタジャパンお客様相談室に連絡して保証修理をご

依頼ください。保証修理受付時に、保証修理手順の手順をご説明しますので、説明手順に従ってください。

2. 保証修理に際しメリタが必要と判断した場合に本製品に係る記憶装置のデータの消去を行う場合があります。この消去につきご同意いただけない場合は、保証修理はいたしかねます。
3. お客様のご都合により、修理受付日から1カ月経過しても修理の着手ができない場合には、修理受付を無効とします。その場合は、改めて修理依頼をしていただきますようお願いいたします。

第7条. 個人情報の使用

1. メリタは、関係法令に従い、お客様よりご提供いただいた保証項目を含め、個人情報等を保管、使用、処理の上、本保証を提供します。また、本保証を提供する為、以下の場合に限り、メリタの責任において、事業協力会社(メーカー・修理会社・販売店・金融機関等)へお客様の個人情報を提供します。なお、個人情報の取扱いの全部または一部を、お客様からの同意を得て他社に委託する場合があります。

①保証修理(代替品の提供を含む)に際してメリタと事業協力会社による個人情報の共有が必要となる場合。

②本保証およびその他のサービスの品質向上を目的として行う、お客様に対する電子メール、郵便物によるアンケート調査の結果。

③サービス案内およびキャンペーン等の実施の場合。

④本保証の品質向上を目的として行う、お客様における本保証の利用に関する情報の収集、分析の結果。

⑤ご提供いただいた個人情報を第三者へ提供することにつきお客様のご同意をいただいた場合。

2. お客様からの求めにより、ご提供いただいた個人情報について、その利用目的の通知、開示、追加訂正または削除、利用の停止および第三者への提供の停止(以下「開示等」といいます)に応じます。

第8条. 間接損害

1. 本保証に関する法律上の請求において、間接損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失等)、特別損害、付随的損害、拡大被害、他の機器や部品に対するデータの損失又は損傷、第三者からの賠償請求に基づく損害、身体障害(障害に起因する死亡及び怪我を含む)並びに他の財物に生じた損害に関して、メリタは一切の責任を負わないものとします。但し、メリタの故意又は重過失によるものがある場合には、この限りではありません。
2. メリタが損害賠償責任を負う場合、債務不履行、法律上の契約不適合責任、不当利得、不法行為、その他請求原因の如何にかかわらず、本製品の購入金額を上限とします。但し、メリタの故意又は重過失によるものがある場合には、この限りではありません。

第9条. 保証の適用除外事項

以下の事項に該当する場合には、本保証は適用されないものとし、原則として有料にさせていただきます。

1. 領収書・納品書のご提示がない場合。
2. お客様又は第三者の故意若しくは過失又は本製品のメーカー保証の対象外である加工、改造、修理、設置、工事若しくは清掃に起因する故障及び損傷。
3. 水質、水圧、湿度、温度、設置場所の傾斜、振動など、取扱説明書・仕様書に記載している条件外の使用が要因で発生した故障及び損傷。
4. 取扱説明書、注意書に記載している取扱方法とは異なる不適切な使用(日常のお手入れ、改造行為、増設、電池漏洩等)

等、取扱いが不相当であることに起因する故障及び損傷。

5. 本製品のメーカーが定める想定された用法を超える過酷な使用に起因する故障及び損傷(車両、船舶への搭載、高温、高湿度等の特殊な環境での使用を含む)。
6. 移設、輸送、破損、落下、衝撃、火災、落雷、過電流、異常電圧、指定外の使用電源(電圧、調波変)、塩害、ガス害(硫化ガスなど)、公害、水害、地震、その他天災地変や、異物(金属、カビ、塵、埃、虫、鼠等)の混入等の外部要因事由に起因する故障及び損傷。
7. 消耗交換に係る費用。
8. 消耗品単体の故障及び損傷。
9. 本製品のメーカー指定外の消耗品の使用に起因する故障及び損傷。
10. 盗難、紛失、その他の事由により、お客様が本製品を保有しておらず、本製品の所在及び状態が確認できない場合。
11. 経年劣化あるいは使用損耗により発生する現象で、通常使用に支障の無い部分で経年劣化の範囲に相当するもの(外装品、塗装面、メッキ面、樹脂部分、スプリング等のヘタリ、自然退色、劣化、錆、腐食、カビ変質、変色、その他類似の事由等)。
12. 本製品の機能及び使用の際に影響の無い損傷(外観、傷、液晶の画面焼けやピクセル抜け及び輝度低下を含む)。
13. 本製品の仕様、構造上又は本来的性質に基づく制限、不利益等。
14. 本製品の付属部品、アクセサリ、周辺機器等の本製品以外の製品の故障、増設機器等の相性に起因する故障及び不具合。
15. メリタが保証修理の依頼を受けた本製品の点検・診断を実施した結果、本保証の対象となる故障及び損傷の存在を確認できなかった場合。
16. 本保証の対象外に起因する故障であることが判明した場合の修理技術費用、部品代金、出張費用、物流費用、修理見積費用等。
17. 修理を伴わない調整(点検、味や量、ミル

ク泡立ち、メニュー変更や追加)、清掃。

18. お客様ご自身で付加されたラベル・シート・カバー類、塗装・刻印等を元の状態に復旧する費用。
19. 本製品を日本国外に持ち出された場合に生じた故障及び損傷保証修理依頼。
20. 国又は公共団体の公権力の行使に起因する故障及び損傷。
21. 核燃料物質若しくは核燃料物質による汚染された物の放射性、爆発性その他の有害な特性に起因する故障及び損傷。
22. 戦争(宣戦の有無を問わず)、外国の武力行使、革命、内乱その他これらに類似の事変に起因する故障及び損傷。
23. 本製品の故障及び損傷に係る申告内容の真実性について明らかな疑義がある場合。
24. 本製品をメリタまで修理のために郵送する際、お客様の梱包方法・輸送時の衝撃に起因する故障および損傷。

第10条. その他の注意事項

1. 故障並びに損傷の認定等についてメリタとお客様の間で見解の相違が生じた場合には、メリタは、中立的な第三者の意見を求めることができます。
2. 修理依頼品について、返却可能日をお知らせしている場合(お客様のご都合でお知らせできない場合を含む)、依頼をお受けした日から3ヶ月を経過してもお受け取りいただけない時は、メリタにて処分します。その際には修理費用(キャンセルに伴う一切の費用を含む)に加え、処分に要した費用の一切を、メリタの請求に従い速やかにお支払いいただくものとします。
3. お客様は、本製品をご購入または設置いただいた時点で、本規程にご同意いただいたものとしてします。

第11条. 本規程の変更

メリタは、本規程の目的に反しない限度で、法令に従って本規程を変更することがあります。

